

検討テーマ「これからの地域コミュニティづくりを考える」

【コミュニティを考える視点】(平成 21 年 3 月 19 日区民会議)
 <ゲストの方のお話より>

○コミュニティの定義:「地域社会」「近隣社会」
 地域に人が住み、そこに人のつながりがある様子のこと

【コミュニティの論点: 活動の場 人材 資金 連携】

活動の場

おしゃべりの場(昔の井戸端)のようなものが必要
 課題: 地域のコミュニケーションの場が減ってきている

人材

すでに活動している人とこれから活動する人
 課題: 新しく活動する人をどう迎えるか(お祭りなどが契機になることも)

資金

人の活動には、資金が必要なものもある

連携

コミュニケーションを定期的、継続的に取ることが必要

【コミュニティ力の強化】

人のきずな、つながりを強める

「電車の中に 100 人の人が乗っていても、その集団をコミュニティとは言わない コミュニティの形成するには、人と人とのきずなをつくる必要がある。その第一歩は「あいさつ」をすること、次に、お祭りであるとか、あるいはおしゃべりの会であるとかいろんな仕組みをつくることで人のつながりを強化していく必要がある」

問題の共有

地域にすんでいる人たちの問題の共有化があるとコミュニティは形成されやすい(例: 井田協友会の町会の立ち上げのきっかけは防犯)

コミュニティ力の継続

コミュニティの継続には「熱意」は不可欠。それを維持するために熱意を持っている人から次の人へ伝播していかなければならない。

【委員の意見・提案】(平成 21 年 3 月 19 日区民会議)

<コミュニティのイメージ>

- ・ コミュニティとは、いろいろ自由な意見を言い合い、おしゃべりして、いろいろなものが生まれてくるというイメージである。
- ・ お隣同士でお互いに仲よく、それが拡大していくと 1 つのコミュニティという形が形成されていく。

<コミュニティの場>

- ・ 公園は地域のコミュニティの拠点のひとつになるのではないかな。
- ・ 子どもを連れてきたり、共通の趣味で集まったり、また、子育てや、生活上のいろいろな不安をみんなで話し合うような場が必要
- ・ コミュニティの場として、地域の連合会館、町会の会館をフル活用すればコミュニティの場所はできるのでは。
- ・ コミュニティは必ず「箱物」がなければコミュニティはできないかということ、それは違うのでは。例えば等々力緑地のところで何人か固まって将棋をしている、それもコミュニティである。形があるコミュニティはもちろんだが、「形がなくなってもコミュニティ」というものを考えていく必要がある。
- ・ 「何とかの役員」でなくても、普通の人が行けるような場づくりをぜひ発信していければ。そのような場であれば若い人たちも協力してくれるのでは。そこでヒップホップをやったっていい。そういう場づくりをやっていければよいのでは。

<コミュニティの連携>

- ・ 地域の民生委員とか町会とか社会福祉協議会とか、そういう人たちが手をつないだところが地域コミュニティとして大きく膨らんでいくのではないかな。
- ・ 学校、地域、行政、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会のつながりがあるので、それを有効に発展していけばよい。

<小杉駅周辺再開発地区等の課題>

- ・ 小杉駅周辺再開発地区には多くの人たちが移り住んできている。新たな住民の人の中には自分たちの生活にあまり干渉はされたくない、しかし一方では、新生活に不安を感じている人もいる。そういう人たちへのケアも考えなければいけない。
- ・ 小杉駅周辺再開発地区の高層マンション群をはじめとして、マンションに住む人が大幅に増えてきている。「横」じゃなく「縦社会」になっている。そういう中でコミュニティをどうつくっていくのかが一番の課題ではないかな。

○コミュニティづくりに関する課題の現状認識

<コミュニティの場> (平成 21 年 4 月 24 日課題調査部会)

- ・ 人々が集まれる広場などの場が不足している。
- ・ 子どもが遊べる場が不足している。
 公園、多摩川でも、グラウンドでもコミュニティの拠点となりうる。
 区民会議として、ハード面の整備を提言したらどうか。

<コミュニティの必要性>

- ・ マンションでは管理組合は組織されているが、それだけでは必要な情報も十分に伝わらず、重要な情報も伝わりにくい。
- ・ マンションが増えるなかで、町内会・自治会などの地域活動に参加する人が少なくなっている。
 町内会等の組織がないと、一定の共通認識や体制が整っていないため、災害等が発生した際の対応が難しい。

<コミュニティの連携>

- ・ 学校、地域、行政、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などのつながりを活かし有効的に発展させる。

○課題に対する取り組みの方向性

- ・ 人々が助け合っていくような関係を作ることが大切
- ・ 個人ができることを積み上げながら、徐々にレベルを上げて、コミュニティづくりをしていく。
 「お金」「場」「人材」もない状況で今すぐ出来ることは、「挨拶をすること」ではないか。
 最近は人間関係が希薄となり「挨拶」もしなくなった。「挨拶」は、コミュニティづくりの原点である。
- ・ 近所の支えあいをもう一度考え直す必要がある。利己主義的な考え方は良くない。
- ・ イベントは、コミュニティの形成に効果的である。
 マンションの住民には高齢者で時間に余裕のある方や優秀な方も沢山いる。地域活動にボランティアとして参加を促す。
 区民会議としてイベントを実施したらどうか。
- ・ 再開発地区マンションで、全ての住民が賛同する企画はなかった。いろいろな考えを持った方がいるので、慌てずにコミュニティ形成を進めればよい。
- ・ コミュニティの形成には、出会いの機会を作ることが大切である。

○課題解決のためにどのようにすればよいか

(いつ、だれが、具体的に何をやるか) **資料 4** へ